

評価項目	評価	コメント
<p>1. 意識改革と組織体制の充実</p> <p>(1)借受希望者を訪問し営農計画を聴取する、集落に入り事業説明を行う、担い手農業者などと定期的に意見交換を行うなど機構から働きかけを行ったか。</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>C</p>	<p>27年度から「京都府農業農村創生センター」を創設し、市町村・農業団体等との連携を強化し、市町村等への説明会を開催(延べ20回)。また、借受希望法人等(延べ38法人)の企業訪問したことなどが評価できる。</p>
<p>(2)現地で取り組む職員(現地駐在員、集積コーディネーター)体制を充実させるとともに、研修などでスキルアップを図ることができたか。</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>C</p>	<p>市町村に設置する市町村コーディネーターが、全市町村に設置されるよう努力されたい。</p>
<p>2. 話し合いの促進による出し手の掘起こし</p> <p>(1)府・市町村と連携し、京力農場プランの作成・見直しの中で、農地をまとめて機構に預けるよう集落に対し働きかけるなど農地の出し手の掘起こしを行ったか。</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>C</p>	<p>出し手への働きかけを一層強化されたい。</p>
<p>3. 機構のPRと農地所有者への喚起</p> <p>(1)機構は知事が指定した公的機関であり、責任を持って農地を管理し、使用料は確実に支払うなど事業のメリットを農地所有者に訴える取組みを行ったか。</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>C</p>	<p>推進パンフや案内チラシを作成し、配布(12万枚)したことが評価できるが、一部には制度を知らない農家が存在している。更なる周知に努められたい。</p>
<p>4. 他事業・機関との連携</p> <p>(1)集落の状況を踏まえ、中間管理事業と農地耕作条件改善事業などを併せて実施するなど課題解決につながる提案をするため、他事業所管部局と連携して取り組むことができたか。</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>C</p>	<p>基盤整備サイドとの戦略的(重点的)連携が必要で、基盤整備事業実施地区への積極的な取り組みを強化されたい。</p>
<p>5. 28年度の取組み</p> <p>(1)27年度の取組み結果を踏まえた上で、28年度の取組み方針を策定することができたか。</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>C</p>	<p>具体的な課題を設定して推進している。</p> <p>○ 平成28年度は、1,000haの農地集積を目指す。</p> <p>○ 土地改良を推進する組織と農地耕作条件改善事業等の実施に係る「事業推進協定」を締結し、円滑な事業推進を図る。</p> <p>○ 地域在所者の中から「農地集積仕掛人」(在宅の農地集積コーディネーター)として配置する。</p> <p>○ 集落営農に取り組んでいる地域等で法人組織を立ち上げるよう誘導し、農地の出し手と受け手を同時に確保する取組を進める。</p>
<p>総合評価</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>C</p>	<p>目標1,000haに向けて700ha以上集積出来たということで、概ね達成出来たと評価する。</p>

A: 目標を達成している

B: 目標を概ね達成している

C: 目標どおり出来ていない